

SBS ニュースレター

Society for Blood Saving

2023年9月 第45号

 血液を大切にする会

発行所：東京都新宿区信濃町35番地 信濃町煉瓦館4F

<http://www.ketueki.or.jp/> TEL:03-5269-1437

発行人：小林 統一 編集人：大城 俊夫

一般社団法人「血液を大切にする会」 を解散するにあたって



大城 俊夫

一般社団法人

血液を大切にする会

副代表理事

私は、国際レーザー医学会名誉会長・前世界レーザー医学連合会事務局長・日本医用レーザー医学会顧問等をしております。

1996年第6回アジア太平洋レーザー医学会で、レーザー医学を世界的に普及・発展させるために、節血運動を私が提案しました。この運動は、2002年に同学会で、正式に批准されました。日本には、日本赤十字社の献血運動がありますので、「節血運動」ではなく「血液を大切にする会」として発足し、明治記念館で発会式

を開催し、産声を挙げました。

表1. に本会の設立時役員を列記させていただきます。

写真1. の設立記念特集号に、

表2. の如く日本赤十字社近衛

忠輝社長、厚生大臣を複数回

就かれた藤本孝雄先生、日本

医師会会長唐澤祥人先生、日

本歯科医師会会長久保満男先

生、日本薬剤師会会長中西敏夫

先生などの医療関係の著名人の

方々に、会の発展・成功へのご

祝辞をいただきました。

年3〜4回発行のニュースレ

ターを44回発行し表3. に執筆

者・表題を纏めました。

年1回開催の講演会の演者・演
題は表4. に纏めてあります。

事務局の仕事はこの他に、年会

費および広告料、寄付金などの

徴収、日本赤十字社の献血運

動への協力願ひ、レーザーによる

節血運動、人工血液、人工赤

血球の研究活動への協力、マサ

ンバレーボールの普及活動への協

力・支援などを行ってきました。

また講演会参加者および会員

の皆様からのアンケートを行っ

たところ、医療・福祉関係、食

Society for Blood Saving
血液を大切にする会

設立記念特集号



良い地球環境が

良い血液を作る



生命を救う一滴の血液

有限責任中間法人「血液を大切にする会」

設立記念講演会 2007年10月27日 明治記念館

「血液を大切にする会」事務局

〒160-0016 東京都新宿区信濃町33-2 真生会館ビル4階

TEL 03-5269-1403 FAX 03-5269-1410

<http://www.jmll.co.jp/sbs.htm>

写真1. 設立記念特集号の表紙

と健康、スポーツ関係、その他順で希望が多かったので、ニュースレターや講演会の執筆者・演者選別に活用させていただきました。

1919年から始まった新型コロナウイルス感染症（Covid19）のパンデミック、オリンピック・パラリンピック、の影響で講演会の開催や、ニュースレターの執筆依頼など事務局の作業が煩雑かつ手薄になり、総会に諮り解散するに至りました。

2007年から始まり本年までの17年間、「血液を大切にする会」にご協力いただき、ありがとうございます。この間に、我が国におけるレーザー医学の普及・発展は目覚ましく、日本レーザー不妊症学会ができ、日本レーザー医学会、日本レーザー治療学会、日本皮膚科学会、日本形成外科学会の専門医制度が確立しております。

ところで、「人工赤血球製剤の研究開発に託す本会の思い」は、前号で、代表理事の小林紘一が、詳細に述べています。

ご参照いただければ幸いです。

表1. 2007年初年度「血液を大切にする会」役員（50音順）

顧問	浅田 敏雄	東邦大学名誉学長
	渥美和彦	世界レーザー連合会会長 日本代替・相補・伝統医療連合会議理事長 日本統合医療学会代表 東京大学名誉教授
	大久保 満男	社団法人日本歯科医師会会長
	唐澤 祥人	社団法人日本医師会会長
	杉岡 洋一	医療法人社団杏林会理事長 九州大学前学長 九州大学名誉教授
	高久 史麿	日本医学会会長 自治医科大学学長
	谷 修一	国際福祉大学学長
	中西 敏夫	社団法人日本薬剤師会会長
	服部 禮次郎	株式会社和光 取締役会長
	比企 能樹	慶應義塾大学三田会会長 北里大学名誉教授
	藤本 孝雄	元厚生大臣
理事	相川 直樹	慶應義塾大学病院 前院長
	赤野間 征盛	日本UNHCR協会 理事長
	赤松 俊武	赤松俊武法律事務所 弁護士
	池田 康夫	慶應義塾大学前医学部長 内科学教授
	大城 俊夫	血液を大切にする会副代表理事 世界レーザー医学連合会事務局長
	奥村 康	順天堂大学医学部免疫学教授
	加藤 治文	国際レーザー医学会会長 東京医科大学外科学第一講座主任教授
	後藤 忠治	セントラルスポーツ株式会社代表取締役
	小林 紘一	血液を大切にする会代表理事 慶應義塾大学医学部呼吸器外科教授
	清水 優史	前橋工科大学工学部生体工学教授
	高尾 精一	NPO法人 IHMAジャパン副理事長
	羽佐間 正雄	スポーツジャーナリスト
	渡辺 清明	日本臨床医学会 理事長
幹事	岩田 久	医療法人偕行会名古屋共立病院 リュウマチ・人工関節センター長
	大城 貴史	医療法人社団慶光会 副理事長
	川合 武司	順天堂大学名誉教授
	琴音 亜紀	チャームロジー研究家、大学・企業講師
	丹後 敏郎	国立保健医療科学院技術評価部部長
	仲 眞美子	イーク丸の内院長
	鍋島 俊隆	名城大学大学院薬学研究科臨床薬学専攻病態解析学コース薬品作用学教室教授
監事	上平 光一	タックスネットワーク 公認会計士・税理士

表2. 「血液を大切にする会」設立記念特集号祝辞一覧表

	所属	名前	タイトル
演題1	血液を大切にする会代表理事	小林紘一	少子高齢化進行の中でいかに良質な血液を確保するか
演題2	日本赤十字社社長	近衛忠輝	「血液を大切にする会」の発展に期待します
演題3	元厚生大臣	藤本孝雄	“民”の血液を大切にする運動の成功を祈念
演題4	日本医師会会長	唐澤祥人	21世紀の日本医師会
演題5	日本歯科医師会会長	大久保満雄	まだ未知なる頁の多い血液の世界
演題6	日本薬剤師会会長	中西敏夫	血液はなくてはならない「医薬品」なのです
演題7	東京大学名誉教授	渥美和彦	私の医学人生での血液との3つの出会い
演題8	北里大学名誉教授	比企能樹	名外科医のイメージはこれだけ変わった
演題9	慶應義塾大学医学部教授	池田康夫	献血依存体制から一歩でも前進したい
演題10	慶應義塾大学名誉教授	小林紘一	人工赤血球の実用化
演題11	世界レーザー医学連合会事務局長	大城俊夫	レーザー医学は血液を大切にする
演題12	日本臨床検査学会理事長	渡辺清明	夢に満ちた臨床検査の世界

演題13	スポーツハーナリスト	羽佐間正雄	台本の無いドラマ中継だからこそ血湧き肉躍る
演題14	順天堂大学スポーツ健康科学部名誉教授	川合武司	「星の王子さま」の考えを指導理念にしています
演題15	慰労法人社団慶光会服理事	大城貴史	臨床の立場から血液を大切にしていきたい
演題16	イー・丸の内院長	仲 真美子	「女性を診たら貧血と思え」至言
演題17	公認会計士	上平光一	監査制度の21世紀的在りかた
演題18	順天堂大学医学部免疫学教授	奥村 康	貴重な血液をいかに有効に生かすか
演題19	東京工業大学名誉教授	清水優史	血液が正常に保たれているこれだけの不思議
演題20	チャーモロジー 研究家	琴音亜紀	人を幸せにした分だけ自分が幸せになれる
演題21	名城大学大学院教授	鍋島俊隆	ワクチンでアルツハイマーが予防できる時代へ
演題22	名古屋共立病院リウマチ・関節センター長	岩田 久	求められる病院の形態変貌
演題23	認定npo法人日本unhcr協会理事長	赤野間征盛	3千3百万人もいる難民の血を守る運動を進めています
演題24	IHMAジャパン副理事長	高尾精一	日本の環境に思うこと
演題25	九州大学名誉教授	杉岡洋一	学生も変わる、教官もかわる。大学教育のあたらしい道
演題26	日本赤十字社社長血液事業本部	田所憲治	血液事業の現状

表3.「血液を大切にする会」ニュースレター一覧表

号	発行年月	所属	執筆者	テーマ
第1号	2008.04	SBS代表理事・慶應義塾大学名誉教授	小林 統一	ニュースレター第一号発刊にあたって
		SBS副代表理事・日本レーザー医学会顧問	大城 俊夫	一日も早い人工血液の実現を
		SBS理事・NPO法人IHMAジャパン副理事長	高尾 精一	SBSと3NPO法人との「沖縄交流体験セミナー」
		新潟大学大学院医歯学総合研究家教授	安保 徹	怒るな！無理するな！楽しむな！
第2号	2008.09	SBS副代表理事・日本レーザー医学会顧問 慶應義塾大学医学部准教授	大城 俊夫 岡本 真一郎	SBSの1年を振り返って 血液がん治療の最前線
第3号	2008.11	イー・丸の内院長 NPO法人パレ・ホームトリオール大会理事	仲 真美子 白井 貴子	女性の自立に向けての自己健康管理 教育は子供たちと目線を平らにする
第4号	2009.02	国立成育医療センター 東京大学名誉教授	梅沢 明弘 瀧美 和彦	難病の子供たちを救おう 国民の健康と統合医療
第5号	2009.06	SBS副代表理事・日本レーザー医学会顧問	大城 俊夫	血液を大切にする会とは
		生命エネルギー研究所農学博士	崔 雨林	食と健康(中国人から見た日本)PT I
		オーストラリアの一燈塾塾長	池田 実	留学生の人格形成教育
		日本ウォーキング協会会長	村山 友宏	「人は何故歩かなければならない」
第6号	2009.09	SBS代表理事・慶應義塾大学名誉教授	小林 統一	生命維持における血液の機能の重要性
		チャーモロジスト	琴音 亜紀	ストレスと健康
		生命エネルギー研究所農学博士	崔 雨林	食事と気分(中国人から見た日本)PT II
第7号	2009.10	SBS副代表理事・日本レーザー医学会顧問 SBS理事・NPO法人IHMAジャパン副理事長	大城 俊夫 高尾 精一	レーザー東京2009について 久茂地小学校体験セミナー
第8号	2010.02	ESTM会長(イタリア) (株)自然美システム代表取締役	ウンベルト ロッシ 萩原 俊雄	ヨーロッパ輸血医学校(ESTM)レポート(I) 被曝と私の人生
		ESTM会長(イタリア) 元JAMA(米国医師会雑誌)日本語版編集長	ウンベルト ロッシ 岩石 隆光	ヨーロッパ輸血医学校(ESTM)レポート(II) ウエザフォードは第2の故郷
第9号	2010.05	東京都赤十字血液センター企画課	矢澤 幸雄	東京都赤十字血液センター便り
		元朝日新聞編集委員・医療担当	田辺 功	ハワイの脳外科学会を楽しむ
		東京工業大学名誉教授	清水 優史	驚きいっぱい、ウニやでロボコン
		SBS理事・NPO法人IHMAジャパン副理事長	高尾 精一	次世代電気自動車の開発
第10号	2010.08	慶應義塾大学医学部教授	半田 誠	輸血と普通の点滴の違い
		アサヒビール名誉顧問	中条 高德	日本人としての誇りを持つ(1)
		東京都赤十字血液センター企画課	矢澤 幸雄	東京都赤十字血液センター便り
第11号	2010.12	医法人慶光会大城クリニック副院長	大城 貴史	花粉症のレーザー治療最前線
		アサヒビール名誉顧問	中条 高德	日本人としての誇りを持つ(2)
		慶應義塾大学名誉教授	渡辺 清明	メタボ健診と血液検査
		アサヒビール名誉顧問	中条 高德	日本人としての誇りを持つ(3)
第12号	2011.03	東京都赤十字血液センター企画課	矢澤 幸雄	東京都赤十字血液センター便り
		イー・丸の内 院長	仲 真美子	現代日本の貧血再考
		元日本テレビ報道カメラマン	松本 洋	沖縄の幻の島ノグチゲラ
		東京都赤十字血液センター企画課	矢澤 幸雄	東京都赤十字血液センター便り
第13号	2011.06	SBS代表理事・慶應義塾大学名誉教授	小林 統一	カザ・インフルエンザ・肺炎の治療
		元日本テレビ報道カメラマン	松本 洋	スチール派とムービー派
		東京都赤十字血液センター企画課	矢澤 幸雄	東京都赤十字血液センター便り
		東京工業大学名誉教授	清水 優史	宇宙酔い
第14号	2012.04	元日本テレビ報道カメラマン	松本 洋	音楽・画像は世界の共通語
		東京都赤十字血液センター企画課	矢澤 幸雄	東京都赤十字血液センター便り
		前日赤社事業局長	山田 史	血液事業の現状と将来
		SBS理事副代表	大城 俊夫	不妊症のレーザー治療
第15号	2012.08	東京工業大学名誉教授	清水 優史	人類の未来についての小さな考察
		医療法人 仁寿会理事長	菊地 辰夫	東日本大震災と低放射線環境
		日本赤十字社血液事業本部	経営企画課	日本赤十字社血液事業本部トピックス

第19号	2013.04	SBS副代表理事・日本レーザー医学会顧問 順天堂大学医学部免疫学特任教授 日本赤十字社血液事業本部	大城 俊夫 奥村 康 経営企画課	本会の25年度の試み 「笑問福来」笑う門には健康来る 日本赤十字社血液事業本部ピックス
第20号	2013.09	SBS副代表理事・日本レーザー医学会顧問 スポーツジャーナリスト 日本赤十字社血液事業本部	大城 俊夫 羽佐間 正雄 経営企画課	レーザー治療で認知症は治るか 人生、原点！複数説 京都大学iPS細胞研究所への協力
第21号	2014.01	防衛医科大学校学校長 元朝日新聞編集委員・医療担当 日本赤十字社血液事業本部	一ノ瀬 尚道 田辺 功 経営企画課	台風30号から思うこと 埋もれています、血液を大切に研究 日赤の血液事業における安全対策
第22号	2014.06	SBS副代表理事・日本レーザー医学会顧問 東京工業大学名誉教授 日本赤十字社血液事業本部	大城 俊夫 清水 優史 経営企画課	レーザーの生体反応 南米5か国の楽しい旅 日赤はいかなる状況でも血液をお届けします。
第23号	2014.08	NPO法人・病態解析研究所理事長 元日本テレビ報道力メロマン 日本赤十字社血液事業本部	星野 忠夫 松本 洋 経営企画課	楽しい糖尿病の話 ヒットする映画考察 輸血用血液をより安全にする「新しい検査方法を導入」
第24号	2014.12	慶應義塾大学大精神神経科専任講師 ジャパンフットニックス代表 日本赤十字社血液事業本部	田淵 肇 上野 寛 広報	認知症の早期発見とその対応 昇地三朗博士の1周年に思う (訓練)被災地へ緊急輸送
第25号	2015.05	慶應義塾大学形成外科名誉教授 元日本テレビ報道力メロマン 日本赤十字社血液事業本部	中島 龍夫 松本 洋 広報	壊れた眼をどう直す 「世界自然遺産」小笠原の魅力 過去の献血血液にシャーガス病の抗体検査
第26号	2015.09	元日韓現代専務取締役 防衛医科大学校学校長 日本赤十字社血液事業本部	鈴木 教亢 一ノ瀬 尚道 広報	縁を深めたオードブル・この果報を次の世代へ ニンニクで有名な田子町 非血縁者間の造血幹細胞移植が3万例突破
第27号	2016.01	スポーツジャーナリスト 慶應義塾大学大精神神経科専任講師 日本赤十字社血液事業本部	羽佐間 正雄 田淵 肇 広報	米大リーグに挑んだ男(Ⅰ) 老年期鬱病と認知症 HCV・HBV・HIVの検査にNATを導入
第28号	2016.05	スポーツジャーナリスト 元日韓現代専務取締役 日本赤十字社血液事業本部	羽佐間 正雄 鈴木 教亢 広報	米大リーグに挑んだ男(Ⅱ) 千二百年続くお接待の心 ALT検査による献血血液の製品除外基準値
第29号	2016.09	SBS代表理事・慶應義塾大学名誉教授 メディカルライズ 理事長 日本赤十字社血液事業本部	小林 紘一 渡辺 昌 広報	血液を大切にする会の発足の経緯 癌治療の未来を探る シャーガス病に対する安全対策の変更
第30号	2017.01	慶應義塾大学百寿総合研究センター教授 慶應義塾大学名誉教授 日本赤十字社血液事業本部	新井 康通 渡辺 清明 広報	百寿者から学ぶ健康長寿血管の老化を防ぐ生活習慣 生活環境悪化のなかで健全な血液を守る ラオス赤十字社の血液事業への支援の歴史
第31号	2017.05	東京工業大学名誉教授 日本赤十字社血液事業本部	清水 優史 広報	50年後の我々の生活を確実にするために 日赤の造血幹細胞提供支援機関としての役割
第32号	2017.09	東京医科大学名誉教授 日本赤十字社血液事業本部	勝村 俊仁 広報	健康長寿のための運動の重要性とその方法 ラオス政府から血液事業支援への感謝メダル
第33号	2018.01	虹橋クリニック副院長 日本赤十字社血液事業本部	仲 眞美子 広報	食と健康「男性と女性の違い」 第8回赤十字・赤新月けつえきシンポジウム
第34号	2018.06	SBS副代表理事・日本レーザー医学会顧問 日本赤十字社血液事業本部	大城 俊夫 広報	レーザー治療で血液を大切に 国際 Missing Type キャンペーン2018
第35号	2018.10	日本レーザー医学会副理事長 日本赤十字社血液事業本部	中村 哲也 広報	光による患者にやさしいレーザー治療 輸血用血液製剤の血液型別カラーラベル
第36号	2019.02	防衛医科大学校学校長 健康科学大学客員教授 日本赤十字社血液事業本部	一ノ瀬 尚道 蒲原 聖可 広報	認知症の方々との出会い 認知症・脳卒中の予防への葉酸効果 非血縁者間の造血幹細胞移植が4万例突破
第37号	2019.05	元日韓現代専務取締役 日本赤十字社血液事業本部	鈴木 教亢 広報	一日一笑で病も退散 日赤献血プロジェクト「みんなの献血」が発足
第38号	2019.10	順天堂大学医学部病院管理学教授 日本赤十字社血液事業本部	小林 弘幸 広報	健康の正体 令和2年「はたちの献血キャンペーン実施中」
第39号	2020.01	メディカルライズ 理事長 日本赤十字社血液事業本部	渡辺 昌 広報	日本に新型コロナ感染者・死亡者が少ない理由 E型肝炎検査を開始
第40号	2020.09	慶應義塾大学百寿総合研究センター教授 日本赤十字社血液事業本部	新井 康通 広報	110歳を超える超百寿者への条件 非血縁者間臍帯血移植が2万例を突破
第41号	2021.04	国立感染症研究所 日本赤十字社血液事業本部	齊藤 智也 広報	東京オリンピック・パラリンピックの新型コロナウイルス対策 安全な血液を安定供給するために
第42号	2022.04	メディカルライズ 理事長 日本赤十字社血液事業本部	渡辺 昌 広報	かくれ貧血と未来の食生活 献血推進プロジェクト「めぐる献血」
第43号	2022.12	SBS副代表理事・日本レーザー医学会顧問 日本赤十字社血液事業本部	大城 俊夫 小川 紘一	不妊症のレーザー治療 血液を大切にする思いを人工赤血球製剤の研究開発に託す
第44号	2023.08	SBS代表理事・慶應義塾大学名誉教授 日本赤十字社血液事業本部	大城 俊夫 広報	血液を大切にする会を解散するにあたって 東京八重洲献血ルームオープン
第45号	2023.08			

表4.「血液を大切にする会」講演会一覧表

	開催日	所属	講師	テーマ
第1回	2007.10.27	日本赤十字社血液事業本部・中央血液研究所所長 新潟大学大学院・歯学総合研究科教授	田所 憲治 安保 徹	血液事業の現状 怒るな！無理するな！楽しすぎるな！
第2回	2008.11.1	NPO法人パレーボール・モントリオール会 代表理事 東京大学名誉教授 イーク丸の内院長	高木 真子 渥美 和彦 仲 真美子	金メダルへの道ーオリンピック裏話 国民の健康と統合医療 最近の女性総合検診の特徴
第3回	2009.10.24	慶應義塾大学医学部 准教授 慶應義塾大学 名誉教授	向井万起男 渡辺 清明	献血、血縁関係、血液型 血液検査の見方ーメタボを中心に
第4回	2010.10.14	慶應義塾大学医学部 教授 アサヒビール名誉顧問	半田 誠 中條 高德	大切な血液の使い方 日本人としての誇りを持つ
第5回	2011.10.13	日本赤十字社 事業局長 日本医療栄誉センター 所長	山田 史 井上 正子	血液事業の将来 食生活と疾病ーがんを予防する食生活ー
第6回	2012.10.18	郡山医師会 会長 警視庁交通総務課 管理官	菊池 辰夫 藤木 恒治	東日本大災害と低放射線環境ー子供たちの健康と課題ー 交通事故の現状と対策
第7回	2013.10.10	SBS理事・順天堂大学大学院 特任教授 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室 専任講師	奥村 康 田淵 肇	「笑門来福」笑う門には健康来る 認知症の早期発見とその対応
第8回	2014.10.09	順天堂大学スポーツ健康科学部 教授 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室 専任講師	鈴木 大地 田淵 肇	東京オリンピックと水泳 認知症と鬱病との関連および対応
第9回	2015.10.22	スポーツジャーナリスト・元NHKアナウンサー 慶應義塾大学医学部百寿総合センター 専任講師	羽佐間正雄 新井 康通	2つの東京オリンピック・・・真の実力者は？ 百寿者から学ぶ健康長寿：血管の老化を防ぐ生活習慣
第10回	2016.10.13	公益財団法人 日本体操協会副会長 戸田中央総合病院リハビリテーション科 部長	塚原 光男 勝村 俊仁	果てしなき挑戦ー金メダルへの道 健康長寿のための運動の重要性とその方法
第11回	2017.10.19	AOI国際病院 健康管理センター長 獨協医科大学医療情報センター 教授	仲 真美子 中村 哲也	食と健康 ～男性と女性との違い～ 食道癌、胃癌に対する光線力学的療法について
第12回	2018.10.18	筑波大学体育系 教授 順天堂大学医学部病院総合診療科研究室 教授	山口 香 小林 弘幸	スポーツの力 ～2020東京をめざして～ 健康の正体ー自律神経を整えて元気で長生きする方法ー
第13回	2019.10.17	財団法人日本水泳連盟アスリート委員 星 奈津美	星 奈津美	競泳人生で学んだ大切なこと

写真2. 第1回 設立記念講演会



事務局だより

本会は、2007年10月に「血液を大切にする会」として設立された。

当法人は、血液を大切にする運動

動や事業を通して、人の健康と福祉に貢献するための次の事業を行うことを目的とした。1. 普及事業 2. 献血運動の支援事業 3. 節血運動の推進事業 4. 医療レーザー、人工赤血球などの支援事業

5. 募金事業 6. その他、当法人の目的を達成するために必要な事業発足後、活発に活動してきたが、2019年に発生した新型コロナウイルス感染症の蔓延に至り2020年1月末にはパンデミックと言われました。

発足以来、本会の目玉事業として、年1回開催出来ていた「血液を大切にする会講演会」も、第13回（2019年）を最後にコロナ禍の影響により開催不能となりました。

また、本会ニュースレターの発行も届先での回し読みがままならず、停滞気味となりました。

なお、本会に携わって来た事務局員の縮小化・超高齢化に伴い人手不足となり、本会の解散の一因となりました。

会員の皆様や各界ご支援・ご協力いただきました皆様、長きに亘り誠に有難うございました。

【お問合わせ】一般社団法人

血液を大切にする会 事務局

TEL03-5269-1437

FAX03-5269-1410

東京八重洲献血ルームが オープンしました

日本赤十字社は、「東京八重洲献血ルーム」を令和5年5月1日にオープンしました。

東京の表玄関ともいえるべき東京駅に面した八重洲の一等地であり、東京駅から地下道で直結しています。周辺には日本橋、銀座等があり、歴史と風情のある街と日本有数の繁華街・オフィス街が融和したイメージから、ルームの随所に江戸切子風のデザインをあしらえるなど、和モダンな要素を程よく取り入れることで、落ち着いたある雰囲気演出し

ました。献血血液は、輸血用血液製剤だけでなく、血漿中にあるタンパク質を抽出・精製した血漿分画製剤という医薬品を製造するための原料として使用されています。

す。



近年、血漿分画製剤の医療需要が増加傾向にあり、免疫グロブリン製剤については、自己免疫性疾患や難治性神経疾患などの治療に欠くことのできない製剤となっており、献血血液の半数以上が血漿分画製剤の原料として使用されてい



ます。「東京八重洲献血ルーム」は、血漿分画製剤の認知度向上を図るとともに、血漿分画製剤の国

内自給の達成に向け、必要とされる血漿量を確実に確保していくための重要な施設として、愛知・大阪に次いで設置した東日本初となる完全予約制の血漿成分献血専用ルームです。

血漿成分献血は、採血装置で血液の中の血漿を分離して採取する献血で、全血献血より時間を要します。採血量は体重によって変わり、採血時間は40分～90分程度になります。

「東京八重洲献血ルーム」では、採血室から東京駅前の景色をパノラマ的に眺めることができます。そして、採血ベッドはプライバシー空間に配慮した仕様・レイアウトとしており、採血中の時間を快適に過ごしていただけます。

また、完全予約制の導入により、採血までの待ち時間が短縮されることや、休憩室のコーキング



スペースで、休憩時間を有効に活用していただけるなど、「東京八重洲献血ルーム」は、居心地の良さだけでなく、利便性の高い献血ルームをコンセプトとしました。

日本赤十字社は、安全な血液製剤を安定的に供給するため、これからも全力を尽くしてまいりますので、引き続き、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。